



「未就園児の居場所を奪わないで」

子育て支援センター5か所の存続を実現した 1万834人 汗と涙の記

夏の終わり 私の（鹿児島市議のぐち英一郎）ホームページよろず相談にメールが届きました。

昨年 鹿児島に移住してきたお母さんで、市内には知人もいない。いくつかの子育て支援施設の中から巡りあえた子育て支援施設が廃止になることを8月2日の南日本新聞で知った。

ようやく見つけた安心できる場所であり、友達もできた。小さい施設だが、だからこそ先生やお母さんとの距離も近く、小さな子どもも連れて行きやすく、お母さんたちに役立っている施設。

施設の地域偏在や大きな市立の子育て施設との機能重複という施設を無くす根拠にも納得できない。開設の枠を縮めてでも、何とかこの施設を残せないかと利用者のお母さんたちで話している。

何か市に話を聞いてもらう方法や施設存続の方法を教えてくださいませんか？

行政に疎く、子育てで時間もとれない中、ホームページの雰囲気相談しやすそうでメールさせていただきました。 というもの。

この8月2日の報道（前日開催の鹿児島市子育て支援会議の関連報道）は市議会にも知らされていない初めての情報でした。ま

さか直接関係のある利用者さんに何の断りもなく「廃止」が決定することは有り得ないと早速実態把握に動きました。

小さな子どもたちの育児真っ最中のお母さん方や市役所の担当にインタビューを重ね分かったのは

今、鹿児島市内には8か所の「子育て支援センター」という施設がある。約80㎡（全てではない）のほど良い空間規模で、保育園などの一部を使って運営されている育児を応援する施設。財源は市と県と国で三分の一ずつ負担されベテランによる相談対応の気軽さと充実で絶大な信頼が寄せられ大人気である。

ところが2年前の10月に、鹿児島市の外部評価による行政改革推進委員会で「センターは縮小すべし」との報告がまとめられた。行政には大きな重たい影響のある評価を受け、廃止の方針を市役所内部で決定。直接管理者に実質的な箱口令とセットで伝えられたのが今年3月。それが8月1日の市の会議で唐突に公表され、新聞掲載。お母さんたち言うところの寝耳に水の事態へなったこと。

驚くべきことに、この廃止について過去2年間、報告をまとめた行政改革推進委員の現場見学は無し

一切の利用者アンケートも皆無だったことも判明し、こんなに重たく影響の大きな案件が机上の文言や資料の数値比較だけで、結論づけられたことがわかりました。

そんな決断ならば、みんなで奮起して廃止撤回を政治的に獲得しなくちゃ！との思